



山口宇部 医療センター だより



YUMe フェスタ “お菓いで調剤体験”

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



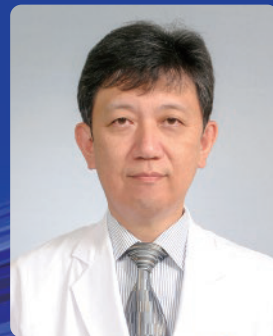
独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター
山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地
TEL.0836-58-2300(代) FAX.0836-58-5219
<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>

第39回市民公開講演会 「がんフォーラム」開催！

副院長 前田 忠士



去る10月19日(土)13:30から、当院の大会議室において、第39回市民公開講演会「がんフォーラム」を開催しました。

当院では年に2回、がんと呼吸器それぞれ市民公開講演会を開催しています。
今回のテーマは「肺がんとがん免疫療法」でした。

第一部は山口宇部医療センター腫瘍内科、宇都宮医師から「当院での肺がん診療の取り組み」という演題で、当院の肺がん診療についてのお話がありました。初めに、当院が山口県の肺がん診療における「がん診療連携推進病院」として拠点的役割を果たしていること、山口県下でどこよりも早く最新の治療に携わり、豊富な経験から最適の治療を提供していることを示されました。また、今回のテーマである免疫チェックポイント阻害薬の驚くべき治療効果について当院での経験を提示しながらのお話がありました。



第二部では、川崎医科大学総合医療センター副院長、瀧川奈義夫先生をお招きし、「肺がん免疫療法を最大限に生かすために一進行がんを克服する免疫療法の進歩」という演題にてご講演いただきました。

最初に、ドライバーオンコジーンと分子標的薬剤のお話がありました。

進行肺がんの患者さんに薬物療法を受けていただくときに、まずドライバーオンコジーンという遺伝子の変異がないかどうかを検査すること、ドライバーがあれば最適な薬剤である分子標的薬剤を患者さん

に届けることができること、すなわち個別化医療がなされていることを教えていただきました。

そして、本日のテーマである免疫チェックポイント阻害薬のお話に移りました。これまでの抗がん剤では決して見られなかったこととして、免疫チェックポイント阻害薬の治療を中止しても、治療効果が年余に渡り続く場合があること、治療を開始した患者さんの15%程度に長期の生存が期待できることを詳細なデータを用いて示されました。



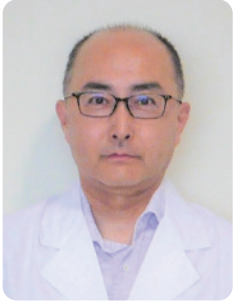
次に、この免疫チェックポイント阻害薬と以前からの抗がん剤を組み合わせる治療法が、進行肺癌の標準的治療になったことを示され、最後に、免疫の薬剤特有の副作用が見られるため、副作用対策をチーム医療として取り組むことの必要性を教えてくださいました。

会場で聴講されていた皆さまからは、熱心な質問が飛び交い、がん免疫療法への興味と期待にあふれていました。

第40回市民公開講演会「呼吸器フォーラム」は、来年2月末頃を予定しておりますので、日を改めてご案内いたします。

最後に今回の講演会にご後援していただきました、山口県、山口県教育委員会、宇部市、宇部市教育委員会、山口大学医師会、宇部市医師会、吉南医師会、厚狭郡医師会、小野田医師会、美祢市医師会、美祢郡医師会、宇部薬剤師会、またご支援いただいた、県内医療機関、地方公共団体、地元自治会、マスコミ及び各種法人様に対し、スタッフ一同大変感謝しております。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

新任医師紹介



内科系診療部長
呼吸器内科
池田 顕彦
(いけだ・あきひこ)

日本内科学会認定医
日本呼吸器学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本がん治療認定機構がん治療認定医

私は山口大学の出身ですが、山大の医局には属さず、卒業後すぐに済生会下関総合病院呼吸器内科で研修を開始しました。その後、縁あって京都大学に移り、臨床研究に約8年間従事。2000年からは神戸市民病院機構へ異動し、中央市民病院と西神戸医療センターとで計19年半の間、様々な呼吸器疾患に対して診療を行ってきました。以前より山口県には呼吸器内科医が大変不足していることは承知しておりましたが、2015年に山大に呼吸器内科が新設されたのを機に、医師としての最後のキャリアを山口で全うしようと決め、山大 松永教授のお取り計らいにより、本年10月より当院へ赴任した次第です。学生時代を過ごした宇部ですが、30年以上も前のことですので、道もよくわかりません。仕事の面でも、電子カルテシステムが以前の病院とは全く違っているため、ご迷惑をおかけしている日々です。できるだけ早く慣れて、お役に立ちたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



緩和ケア科医長
緩和ケア科
小笠原 啓子
(おがさわら・けいこ)

日本内科学会認定医

10月より緩和ケア病棟を担当させていただいております。当院からの美しい眺めと温かい病棟の雰囲気にも私も日々癒されています。どうぞよろしくお願いいたします。



第15回 中四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に参加して

緩和ケア病棟看護師 **藤田 容子**



令和元年9月7日に広島県で開催された看護研究学会に参加しました。この学会は看護に関する研究及び看護の質の向上・発展を目的としており、それぞれの病院が特殊性をふまえた視点で研究発表が行われました。私達は、「緩和ケア病棟における看護師が行う意思決定支援の現状」というテーマで発表を行いました。意思決定支援や家族支援をテーマにしたカテゴリーの中での発表でしたが、「患者・家族に目を向けた研究であった、今後の成果を期待している」との言葉添えと共に座長賞をいただきました。

これからも、患者さん・ご家族が何を大切にしているか、残された時間をどう生きるのかということを多職種で情報共有して、身体的苦痛だけでなく全人的な視点で話し合えるようにカンファレンスを進め、意思決定支援を行って行きたいと考えています。

また会場では、元広島カープの達川光男さんが「技の伝承と個性を伸ばし、チーム力を高める人材育成力を学ぶ」というテーマで講演されました。選手時代や監督時代のお話を聞き、ユーモアを交えた関わり方について学ぶことができました。人それぞれ価値観は様々です。

これからも、その人の価値観を尊重した看護ができるように、医療者としてだけでなくひとりの人間として、患者さんご家族に真摯に向き合っていきたいと思っております。



看護師体験について

副看護部長 上野 弘恵

看護師体験は、山口県看護協会事業の一環で、中学生・高校生を対象に看護師の体験学習を行うことで看護への関心と理解を深め、体験を通じて看護師になる夢を契機に次世代へとつなげることを目的に実施しております。今年度は地元の宇部市、山陽小野田市、防府市から中学生7名・高校生5名の合計13名が参加しました。

今回はじめて参加した学生は緊張した面持ちでの集合。まず初めに自己紹介、そして看護師の白衣に着替えてもらいました。看護部長の挨拶後、看護師長と一緒に病棟まで行き、いよいよ看護師体験の開始です。病棟の担当看護師とバイタルサイン測定や車椅子体験、また看護師と一緒に患者さんの手浴や足浴、洗髪などを体験しました。

病棟での体験終了後、参加した皆さんの顔が笑顔いっぱい、生き生きとした表情に変わっていました。看護師になるための進学方法等について説明を行うと、「看護師になって嬉しかったことは何か」や「実際の夜勤は怖くないのか」など活発な質問が続きました。



また、「看護師になると沢山の患者さんが笑顔になるのでやりがいのある素晴らしい仕事だと思いました」、「患者さんの笑顔がすてきで嬉しかった」、「看護師の仕事に興味がわきました」などさまざまな感想が聞かれました。

短い時間でしたが、楽しい時間を共に過ごすことができました。参加した13名の皆様がこの体験を通して、看護師を身近に感じ、今後、看護師の道へ進んでくれることを楽しみにしています。

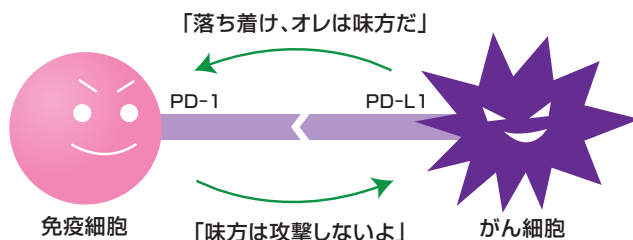


PD-L1検査について

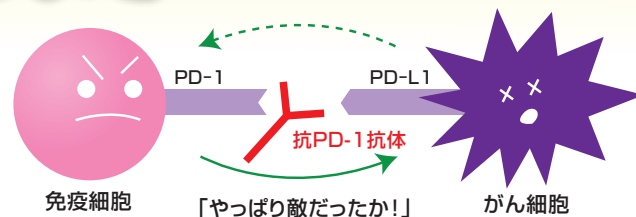
臨床検査技師長 西村 俊直

PD-L1検査は肺がん治療を目的とした検査法で、患者さんから得られた肺の生検材料や手術材料などの病理組織標本に免疫組織化学染色を行い、がん組織・細胞中のPD-L1タンパクを検出します。切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者さんを対象にPD-L1検査を実施していますが、PD-L1発現の有・無や高・低により治療法が異なります。この治療に関わる分子機構の発見者は昨年、ノーベル医学生理学賞を受賞された京大の本庶佑(ほんじょたすく)先生を中心としたグループです。

【作用機序】免疫細胞には本来異物を排除するアクセルの機能と免疫過剰にならないようブレーキをかける機能を持っています。免疫細胞の分子PD-1とがん細胞の分子PD-L1が結合すると、本来はがんを退治するはずだった免疫細胞の攻撃にブレーキがかかり、免疫作用が働きません。免疫チェックポイント阻害剤である抗PD-1抗体が分子の結合を妨げると、免疫細胞は本来備えていた免疫作用を取り戻し、がんを攻撃し始めます。抗PD-1抗体としてペムブロリズマブ(キイトルーダ)やニボルマブ(オプジーボ)が知られています。



①がん細胞は、免疫細胞からの攻撃を逃れるためにPD-L1というタンパク質を出し、これが免疫細胞のPD-1に結合すると、免疫細胞の働きが抑制されます。



②抗PD-1抗体は免疫細胞のPD-1に結合し、PD-L1との結合を阻害。抗PD-L1抗体は、がん細胞が出すPD-L1に結合し、PD-1との結合を阻害します。
平成29年2月より保険適用

【測定項目】PD-L1タンパク

【測定方法】免疫組織化学染色法

【測定目的】がん組織・細胞中のPD-L1発現率の測定

【主な対象】切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者

【有用性】PD-L1発現を確認することで抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応判断を補助します。

※ペムブロリズマブ(キイトルーダ)やニボルマブ(オプジーボ)などの免疫チェックポイント阻害薬は、免疫反応を介した新たな治療法で、肺癌治療における夢の新薬として期待されています。現在は主に単剤での効果が検討されていますが、併用療法の検討が重要になってきます。

今後は血管新生阻害剤との併用で副作用を増やすことなく効果を出すという観点で最も関心があり、免疫のメカニズム上も相乗効果が期待されています。患者さんにとって最適な治療に繋がることを願っています。

「還暦を祝う会」

療育指導室 保育士 早崎 典子

今年還暦を迎えられる、きらら病棟の4名の方の「還暦を祝う会」を、令和元年9月11日(水)に行いました。開会と共に、きらら病棟師長の紹介に合わせて、一人一人が会場の方の温かい拍手に迎えられながら入場しました。ドレスアップした4名の方も、とっても嬉しそうでした。

亀井院長からのお祝いの言葉に続き、主治医からメッセージと4名それぞれをイメージしたバラの花が手渡されました。

そして、今回の還暦を祝う会のメインイベント「KANREKI SUPER LIVE 4×60」では、4名の還暦を迎えられた皆さんが、それぞれに工夫を凝らした衣装やグッズを身につけ、曲に合わせて会場に集まった皆さんの真ん中で、パフォーマンスを行いました。会場の



皆さんからの声援や掛け声で、スーパースターになったような気分を味わって頂きました。4名の皆さんのパフォーマンス、本当に素敵でした!

最後にもう一つのメインイベント「memory & melody」では、還暦を迎えられた皆さんの懐かしい写真のショートフィルムを懐かしい曲と共に上映しました。会場が温かい雰囲気になりました。

還暦を迎えられた4名の皆さん、本当におめでとうございます。

第2回 山口宇部医療センター 「夢Y.U.M.e」フェスタ開催 ～未来の医療スタッフみんな集まれ～

放射線科 RI 検査主任 伊月 将人

去る2019年10月19日(土)9:30より第2回 山口宇部医療センター「夢Y.U.M.e」フェスタが開催されました。当日は雨が降る懸念もございましたが、幸いにも雨が降ることもなく前年度を上回る約370人の方にご来場いただき大盛況のうちに無事終了いたしました。

さて、放射線科では「CT撮影を体験してみよう」と題して、実際にCT装置を用いて色々な食材を撮影し診療放射線技師の仕事を体験していただきました。

体験コーナーの概要は以下の通りです。

- ①CT装置内部はどうなっているのだろう？
- ②実際にCT装置で撮影された写真をみてみよう！
- ③CT装置を実際に見てみよう！
- ④段ボール箱の中身はなあに？
- ⑤3D画像だって作れちゃう！



段ボール箱の中身はなあに？

動画や写真を用いてCT検査について説明させていただいた後、実際に段ボール箱の中に「いか」、「さんま」、「パイナップル」のどれかを入れて撮影しクイズを出しました。

CT操作室にご案内すると、ご来場者様より「ラジエーションハウスみたい!」「指令室みたい!」と喜んでいただき、実際に撮影を行うと、一斉に答えられる場面もありました。



この後大変
おいしく頂きました

3D画像だって
作れちゃう!



親御さんからは「診療放射線技師になるための学校はどこにありますか?」といった質問や、「CT検査とMRI検査のちがいは?」等、多数のご質問を受けました。

診療放射線技師の業務は、レントゲン撮影を初め、マンモグラフィ、胃のバリウム検査を代表としたX線透視検査、CT検査やMRI検査、カテーテルを用いた血管造影検査、RI(PET検査を含む)検査、放射線治療に至るまで業務内容は多岐に渡ります。放射線と聞くと怖いイメージもあるかもしれませんが、適切な放射線の量を用いることにより安全に体の中を詳細に画像化する事や放射線によってがんを治療することができ、今日の医療においては欠かすことのない分野となっております。

今回、体験コーナーを通して多数のご来場者様に興味を持っていただけて大変嬉しく思いました。

最後に、第2回山口宇部医療センター「夢Y.U.M.e」フェスタで共に協力頂いたスタッフの皆様へ厚く御礼申し上げますとともに、子ども達が、将来医療スタッフを目指すきっかけになれば幸いに存じます。



第2回 山口宇部医療センター 「夢フェスタ」を開催しました！！



管理課長 植田 誠司

令和元年10月19日（土）9時30分から、第一部 第2回山口宇部医療センター「夢フェスタ」、13時30分から、第二部 第39回市民公開講演会「がんフォーラム」を開催しました。

昨年は、山口宇部医療センターに名称変更して10年を迎えたことを記念して行われました。昨年の来場者のアンケートでは「貴重な体験ができた」「薬剤師になりたい」「手術体験が難しかった」等、とても好評なご意見をいただいたこともあり、引き続き実施していくことといたしました。併せて例年秋に開催しております、市民公開講演会「がんフォーラム」を同日開催し、1日を通したイベントとして企画しました。

目的としては、昨年同様で将来の職業として医療を選択肢の一つに選んでいただけるように体験を通じて医療を知ってもらう、また地域の方とふれあう機会として、健康相談コーナーや緩和ケア病棟の紹介、看護師を目指す方へ進路相談等を企画して開催しました。

前日までは雨模様で、屋外の開催が危ぶまれましたが、予定どおり屋外でオープニングセレモニーをすることができました。

セレモニーでは、三村臨床研究部長による開会の挨拶の後、宇部市立東岐波中学校吹奏楽部37名の生徒さんによるジブリ作品の曲を中心に、楽しく盛大な演奏で開幕しました。

ステージでは、吹奏楽に続いて、17名2チーム

によるヨサコイのダンスパフォーマンスが行われ、ラストはシンガーソングライターの加藤 綾さんのミニコンサートが公演されました。ヨサコイチームも加藤さんも地元の方達で、この夢フェスタのために駆けつけていただき、ステージを盛り上げてくれました。

宇部市のマスコットキャラクター「チョコクン」や山口県警察のマスコット「ふくまるくん」もフェスタを盛り上げるために、イベント会場や重心病棟を訪問し、ふれあいを通して皆を元気にしてくれました。

体験のコーナーは、「顕微鏡を使っているいろいろ観察しよう」、「お菓子で調剤体験」、「バイキンマンやつつける（手洗い体験）」、「外科医になってみよう」「CT撮影を体験してみよう」等を行い医療を身近に知っていただくことができました。また、ゲームコーナーでは「ピカッとタッチ」「スカイバルーン」「お菓子釣りゲーム」を行いました。各コーナーからはワイワイと賑やかな笑い声に包まれていたり、目をキラキラと輝かせながら真剣な顔で色々な体験をしていました。

昨年を大きく上回る372人の来場者の方達をお迎えることができましたこと、事務局として大変嬉しく思います。今後も当院のビッグイベントに成長できるよう熟成していけたら幸いです。



外来診療担当医表

令和元年11月1日 現在

診療科	概要	月	火	水	木	金
内科新患外来		担当医	山路 義和	池田 顕彦	池田 顕彦	角川 智之
内科紹介外来			亀井 治人	亀井 治人	亀井 治人	亀井 治人
内 科			石田 浩一			石田 浩一
呼吸器内科		伊藤 光佑	坂本 健次	大畑 秀一郎 上原 翔	大石 景士 坂本 健次 村田 順之 伊藤 光佑	大畑 秀一郎 坂本 健次 上原 翔
腫瘍内科	抗がん剤治療 肺がん等	前田 忠士 近森 研一	青江 啓介 宇都宮 利彰	近森 研一 中西 将元	前田 忠士 宇都宮 利彰	青江 啓介
画像診断科	画像診断等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	林 雅太郎	
呼吸器外科・外科	肺がん	岡部 和倫 林 雅太郎 沖田 理貴		岡部 和倫 井野川 英利 林 雅太郎 川本 常喬	岡部 和倫 井野川 英利 沖田 理貴 川本 常喬	
乳腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等			平澤 克敏		平澤 克敏 (午後・新患のみ)
循環器内科	心臓・高血圧等	佐伯 幸男		佐伯 幸男		
緩和ケア内科	※完全予約制	中西 将元			中西 将元	
放射線科	画像診断・ 放射線治療等	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河
小 児 科	障害児外来 ※紹介予約患者のみ 診察			奥田 裕美		沖野 文子
精神・神経内科	てんかん等	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘
Clinic for English speaking patients		Dr. K. OKABE		Dr. K. OKABE	Dr. K. OKABE	

※下記診療科は入院患者のみ診療

消化器内科	内視鏡等				戒能 聖治	
整形外科	リウマチ・骨粗鬆症等					今城 靖明
歯 科				竹縄 隆徳		原田 耕志
耳鼻いんこう科				樽本 俊介		
神経内科				大石 真莉子		

① 外来受付時間: 午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間: 午前8時30分～】

※内科新患外来: 午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来: 午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

